

# 補助金対象事業報告書(平成25年度)

団体名	特定非営利活動法人Life Bridge Japan (平成 25 年 6 月設立)
事業名	健康に障害を抱える区民の心のケアを支える傾聴ボランティア育成事業
事業(該当区分に )	1.活動促進事業 2.協働事業 3.若者活動事業 4.地域活動チャレンジ事業

## 1 事業の目的

目的	病気を抱える人やその家族(介護者)らの複雑な心のケアに対応できる、話を聴いてくれる人づくり、話ができる場所づくりに取り組む中、健康に障害を抱える人の心にも寄り添える、より高度な傾聴の技術を持つボランティアを地域に増やし、区民の心の健康を守り支える環境づくりの実現化。
----	---

## 2 事業の実施状況

	事業計画	事業実施結果
実 施 状 況	<b>実施対象者・対象人数</b> 1.傾聴ボランティア育成講座 対象40名 傾聴ボランティアに興味がある人 2.フォローアップ研修 対象20名 傾聴ボランティア育成講座受講者に限る	1.傾聴ボランティア育成講座(1回目9名、2回目19名) 2.フォローアップ研修17名
	<b>実施内容</b> NPO法人パートナーシップ・アンド・リスニングソリューション(P.L.A)の専任講師による、傾聴の基礎から病気(病人)を抱える人を対象とした傾聴のワークショップとロールプレイを中心とした傾聴ボランティア講座及びフォローアップ研修の提供	NPO法人パートナーシップ・アンド・リスニングソリューション(P.L.A)の専任講師による、傾聴の基礎からLBJオリジナルの病気(病人)を抱える人を対象とした傾聴のワークショップとロールプレイを中心とした傾聴ボランティア講座及びフォローアップ研修の提供
	<b>実施場所</b> 杉並区の会議室を中心に、あんさんぶる会議室、セシオン杉並会議室、すぎなみNPO支援センター研修室など	すぎなみNPO支援センター研修室及び細田工務店会議室にて実施
	<b>実施回数・スケジュール</b> 1.傾聴ボランティア育成講座 年2回 6月、11月 1講座当たり全12時間半の講義内容で4日に分けて行う 2.フォローアップ研修 1回 1日4時間 4月	1.傾聴ボランティア育成講座 年2回 6月26日・7月3日、5日、10日全4日間13:00～16:30、 11月2日、16日 10:00～16:30 全2日間 2.フォローアップ研修 1回 3月8日 13:15～15:45
	<b>実施体制(従事した人員数・設備等)</b> 育成講座及びフォローアップ研修共にスタッフ各2名 指導講師 育成講座1名 フォローアップ研修2名 ロールプレイ用の40名ほど入る広い会議室、マイク、ホワイトボード、座学とロールプレイによる講義内容	育成講座及びフォローアップ研修共にスタッフ各2～4名 指導講師 育成講座1名 フォローアップ研修1名 ロールプレイ用の40名ほど入る広い会議室、マイク、ホワイトボード、座学とロールプレイによる講義内容
自 己 評 価	<b>事業は当初の予定どおり実施できましたか。</b>	
	前期の育成講座の反省(集客困難、受講料が高い、気軽に参加、しかし内容が濃い学習内容の提供)に基づき、後期講座及び研修の企画を一部変更したが、講座内容においては予定通り充実した内容を提供することができた。講座の内容がワークやロールプレイを中心としており、予想以上にアシスタントを必要とした。	
	【自己評価】 <input type="checkbox"/> できた <input checked="" type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった	

### 3 実施事業の効果・成果 及び 自己評価

		事業計画時	事業実施後
効果・成果 及び 自己評価	<b>当初予定したニーズがありましたか。</b>		
	<p>区内における手が届いていないの病気を抱える人や傍で支える家族(介護者)の心のケアが求められている。傾聴の基本は勿論、病気がストレスの原因となる人たちの心のケアも出来るボランティアを求め声は高く、今後ますますニーズは高まる傾向が予想される。</p>		<p>講座の参加者は、前期は会員と家族の介護者が主であった。後期の講座に於いては、病気を抱えていたり経験した人、実際病院でボランティアをしていて不安を感じている方が参加され、参加者自身が経験を生かした傾聴ボランティアの必要性に共感し、講座に参加されていた。</p>
	【自己評価】		
	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> 概ねあった <input type="checkbox"/> あまりなかった <input type="checkbox"/> ほとんどなかった		
	<b>地域の特性を活かした活動になりましたか。新たな問題提起ができましたか。</b>		
<p>病気と共存、克服した人たちと地域市民が協働で、地域モデル事業として区内の医療福祉施設、患者会などでピアカウンセリングにつながる傾聴ボランティアを育成し、活動を展開することによって、得られた問題の傾向と対策を全国的に発信、地域市民の幅広い心のケアを市民が共に考え、支える環境づくりの重要性へとつなげていく意義は大きい。</p>		<p>杉並区民として同じ地域に住む方のお役に立ちたいと、受講生同士によるボランティアに関する情報交換が行われたり、講座終了後、本会が主催している街なか縁が和SUGINAMI(コミュニティカフェ)での傾聴ボランティアデビューをされた方もいた。</p> <p>また、新たにLBJ傾聴ボランティアサークル「クローバー」を立ち上げ、区内の有料老人ホーム、ホスピスでの傾聴ボランティア活動を展開中である。</p>	
【自己評価】			
<input type="checkbox"/> できた <input checked="" type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった			
<b>当初想定した「期待される効果」をあげることができましたか。</b>			
<p>病気に悩む人や家族の心に寄り添うことができる傾聴の技術をもったボランティアが地域に増えることで、傾聴活動の対象者(場所)の幅が広がり、傾聴技術をより高めていく必要性が継続的に生じてくる。</p> <p>傾聴活動を通じた地域の支え合いによって、日常生活における市民の心の安らぎ(うつ、孤立死、自殺予防も含めた)と、地域の活性化をもたらす効果が期待できる。</p>		<p>傾聴ボランティア活動において不安を感じていた方には、技術を身に付け自信につながった。また、仲間による学習及びサポート体制作りによる安心感によって、活動再開を前向きに考えることができた人がいた。</p> <p>敷居が高い医療の現場でも必要とされているのならボランティアしてみようという声が聴かれた。ホスピス病棟での傾聴ボランティア活動が認められたのは大きな成果であった。</p>	
【自己評価】			
<input type="checkbox"/> できた <input checked="" type="checkbox"/> 概ねできた <input type="checkbox"/> あまりできなかった <input type="checkbox"/> ほとんどできなかった			
<b>今回行った事業を通して、理解者や支援者は広まりましたか。</b>			
<p>ホスピス病棟で傾聴ボランティア活動をしたことで、病院という場所は本来傾聴技術を身に付けた職員が数多くいる場所にも関わらず、話を聴いてくれる人はいないと訴える患者様が多く、気分や体調が良ければ話し相手を必要としている方がいることをお話すると、医療現場で話を聴いてくれる人が少ないこと、話し相手が求められていることに理解を示してくれる人が増えた。</p> <p>講座を開くだけでなく、その後のフォローアップ研修、学習交流会など継続的に傾聴ボランティアの活動をサポートしていることが重要と感じた。</p>			
【自己評価】			
<input type="checkbox"/> 広がった <input checked="" type="checkbox"/> 多少広がった <input type="checkbox"/> 広がらなかった			

4 事業の公開と「杉並区NPO支援基金」の普及啓発活動はできましたか。

普及活動等	<p>ボランティア、区報、今日DOすぎなみなどの情報誌を通して普及啓発を行った他、インターネットを使用したPLA、当会HPでの活動公開、東京ボランティアセンター及び、移植医療に係わる企業がHPで活動紹介を行って下さった。</p> <p>また、区役所にチラシを設置したほか、すぎなみNPO支援センター内のポスター掲示、区内の飲食店などにおいてお願いしてチラシを掲示。杉並区傾聴の会 チェリー傾聴の会による口コミによる多大な協力を頂いた。</p> <p>しかしながら、設立したばかりの会ということもあり、普及啓発活動は一方通行で浸透力に欠け、集客に苦労した。</p>
-------	---

5 今後の課題と活動について

今後の課題と活動	<p>卒業生による傾聴ボランティアが実際に活動することで、当会の事業に対する信頼も高まり需要が増えることを期待し、技術を身に付けることだけが目的ではなく、区民の役に立てる活動が行われている実績を積み上げていくことが課題である。</p>
----------	---

6 活動状況について

7 収支決算

事業費	392,904	補助金額	255,000
-----	---------	------	---------

収入		予算額	決算額	決算額内訳
	団体負担金	13,570	64,904	団体負担金 64,799円
	参加費・資料代等	96,000	73,000	参加費 2,000円 × 28名 (傾聴講座) + 1,000円 × 17名 (研修)
	その他の収入			
	NPO支援基金助成	255,000	255,000	
	計	364,570	392,904	

支出	費目	予算額	決算額	決算額内訳
	報償費	280,000	230,000	講座研修費用 100,000円 × 2回 (食事代、交通費別) フォローアップ研修費用 30,000円 (講師交通費込)
	旅費	20,000	57,000	第1回育成講座 講師1名 3,000円、アシスタント2名 24,000円 (3,000円 × 4日 × 2名)、第2回育成講座 講師1名 3,000円、アシスタント日替わり4名 18,000円 (3,000円 × 2日 × 2名、3,000円 × 1日 × 2名)、フォローアップ研修アシスタント3名 9,000円 (3,000円 × 1日 × 3名)
	備品費・消耗品費	11,950	83,224	印刷用紙代(修了証含む) 5,231円、封筒代 2,674円、事務用品代 8,336円、ワーク用備品・消耗品代 66,085円、消毒用アルコール 898円
	役務費	15,000	20,000	通信運搬費 第1回育成講座の案内状 80円 × 100通 (会員及び関連機関) 第2回育成講座の案内状 90円 × 100通 (会員及び関連機関) フォローアップ研修のお誘い状 80円 × 35通 200円 × 1通 (PLA)
	使用料・賃借料	36,000		
	その他の経費	1,620	2,680	PLA研修講座費振込手数料 (420+420+840)、PLA交流会参加費 1,000円 (傾聴ボランティア育成講座修了生によるLBJ傾聴サークルクローバーの設立紹介)
	計	364,570	392,904	